



2019年5月15日

各位

会社名 株式会社ゼネラル・オイスター
代表者名 代表取締役社長 吉田 秀則
代表取締役 CEO 丹野 裕介
(コード番号：3224 東証マザーズ)
問合せ先 経理財務部部長 柏木 伸介
(TEL. 03-6667-6606)

特別損失の計上及び2019年3月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、以下のとおり、特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせするとともに、2019年3月期通期業績予想に関しまして、実績との間に差異が生じたので、その修正を下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社グループの保有する固定資産（加工工場関連資産を主とする共用資産）について、2019年3月期第4四半期会計期間において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたします。この結果、減損損失として332,741千円を計上します。

なお、既に計上している2019年3月期第3四半期会計期間の減損損失22,062千円を含めた2019年3月期通期における減損損失計上額合計は、354,804千円となります。

2. 2019年3月期通期業績予想と実績値との差異（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	3,836	0	△1	20	7円29銭
当期実績値 (B)	3,706	△21	△18	△269	△98円00銭
増減額 (B)－(A)	△130	△21	△17	△289	△105円29銭
増減率 (%)	△3.38%	—	—	—	—

3. 差異が生じた理由

当社グループは、2019年3月期においては、既存事業の収益性改善や不採算店舗撤退等、グループ全体の立て直しに注力してまいりました。しかしながら、下記の理由から通期業績予想を下回る見通しとなりました。

売上高の差異は、下期の既存店舗売上回復・向上を達成したものの、上期の悪天候等による客数減少の影響を補うことが出来なかったことによります。

営業利益及び経常利益の差異は、業績予想を下回った売上高に対する売上総利益の減少を固定費削減などの取り組みで賄えなかったことによります。

親会社株主に帰属する当期純利益の差異は、主に2018年3月期まで稼働に至っていなかった加工工場に起因するものです。2019年3月期には、同工場の本格稼働開始を進め、これに成功しました。もともと、足許の状況及び今後の見通し等を踏まえて、加工工場関連資産を主とする共用資産からの将来の回収可能性を合理的かつ保守的に見積もりました。その結果、2019年3月期第4四半期会計期間に資産の一部を減損いたしました。

以上